

もりや里山新聞

’22/12/24

【土曜日】

発行

守谷里山ネット

一・小学校課外授業 (自然体験、ザリガニ釣り)

御所ヶ丘小学校2年生のサツマイモ植えは苗の都合で六月二日に会員で実施しました。

六月二四日に改めて課外授業で、タモや虫かごをもち徒歩で元気に



里山の植物観察会



小川で笹舟流し



釣り上げたザリガニ

やってきました。オープニングとして里山

「里山探検に必要なものは何か」として「ザリガニを捕まえるには、育てるには、安全に活動するには」

皆で里山にやってきました。自然体験です。笹舟流しなどで里山を一緒に巡りながら、ザリガニ釣りの仕掛けを手作りし、

の会の手ほどきを受け、皆で笹舟を手作り、さっそく小川で笹舟流しをしました。笹舟のゴール地点からパレット渡りなどで里山を一巡し探検した後に、ザリガニ釣りや魚とりをしました。

続いては松前台小学校2年生の自然体験です。七月六日(水)学校で事前授業があり、会員が里山名人として講師を務めました。

教室で一通りの講義を行ってからの

とミッションを書き出し、グループ討論を行った後に各グループ代表から発表が行われました。

そして翌週七月一四日(木)は

とミッションを書き出し、グループ討論を行った後に各グループ代表から発表が行われました。そして翌週七月一四日(木)は



里山名人の事前授業

— 目次 —

1. 課外授業(御所ヶ丘、松前台)
2. スマホを活用した自然観察会
3. 里山の夏休み開放
4. 収穫の秋：稲刈り、マコモ、さつまい芋
5. 市民大学で里山講座



小川や池の周りで挑戦。最初はなかなか手ごたえがなかった。せんでも一人が釣れた。釣れる次々と釣れ始め、歓声が上がりました。バケツに数十匹の釣果で皆満ちた。

守谷里山ネットワーク

〒302-0119

守谷市御所ヶ丘 5-25-1 守谷市民活動支援センター

☎ 0297-46-3370

メール denen21@ktb.biglobe.ne.jp

ホームページ

・「[守谷の里山](#)

<http://satoyama.moriya-nature.com/>

ボランティア募集
あなたも一緒に楽しみましょう!



守谷市では、多くのボランティア団体が各地で、手作りによる里山づくりを行っています。何か地域で活動してみたい/自然と関わりのある活動をしてみたい/子供たちの遊び場を作ってみたい/みんなで楽しく汗をかいてみたいそんな思いをお持ちの方は、ぜひこの機会にご一緒に活動してみませんか。

スマホDE植物観察会

身の回りにある植物を見つげに行き、スマホで名前を調べてみませんか？植物博士への第一歩になるかも！？

日時・・・7月24日(日) 9:00~11:00
 集合場所・・・郷州公民館 1階調理室
 活動場所・・・郷州公民館とその周辺 ※雨天の場合は調理室にて活動
 講師・・・飯田 勝明氏(茨城県立自然博物館)
 守谷ネイチャーライフの皆様にも協力いただきます

参加費・・・無料
 定員・・・市内の小学生親子10組 ※超過の場合抽選
 持ち物・・・スマートフォン、筆記用具、虫よけスプレー、帽子、タオル、飲み物

申込方法
 往復はがきに「講座名・住所・電話番号・保護者氏名・子供の氏名・学年」を記入して郵送。または、官製はがきを持参して中央公民館窓口で申込み。
7月11日(月) 必着

申込・問合せ先
 守谷市中央公民館 Tel. 0297-48-6731
 〒302-0110 守谷市百合ヶ丘2-2540-1

コロナウイルス感染症対策について
 ・当日、発熱を認めたり体調不良がある場合は参加をご遠慮ください。
 ・参加の際は、マスク着用をお願いします。
 ・会場内には、消毒液も用意しておりますので、ご了承ください。



二. スマホを活用した自然植物観察会

夏休みに入った七月二十四日(日) 九時から郷州公民館主催でスマホを活用した自然観察会が実施されました。

企画はネイチャーライフ、郷州公民館の館長の助言を受けて行いました。

講師は茨城県自然博物館の飯田先生、場所は郷州公民館近くの緑地、開催時期は夏休みが始まる七月下旬としました。

かつての自然観察会は思い図鑑等を抱えて行うことが多かったのですが、最近はスマホの検索アプリが手軽に使えるようになりました。



スマホで植物観察会

「身の回りにある植物を見つげに行き、スマホで名前をしらべてみませんか？」植物博士の第一歩になるかも！のキャッチフレーズのもと、夏休みの子供達を募集しました。

当日の天気は晴れ、暑い一日でした。

三. 夏休みの里山開放

参加者は、五家族、親子十二名。受け入れ側は公民館二名、ネイチャーライフ五名。

スマホで気になった植物の写真を撮り、アプリで名前などを検索します。それが正解かどうか飯田先生に確認してもらい、さらに本格的な説明をしてもらい、皆領いていました。

宇佐見館長の綿密な計画のお陰で、無事充実した時間を過ごすことができたという評判でした。

コロナ禍により外出自粛が多い中で、リモートワークやオンライン授業の普及により、平日の日中に身近な遊び場としてやってくる家族が増えてきました。

そこで一般市民が気軽に、身近な自然に安全安心に親しめるように工夫しました。

ツリーデッキや水上パレットなどに加えて、里山の一面に湧水プール、ソーメン流し、バーベキューコーナー等を常設し、子供の遊び場として開放しました。

多人数のイベントは企画せず、

冷たい湧水プール



家族や小人数のグループなどに随時使ってもらうことにしました。

特に今年の夏休みは暑い日が続いたので、上総掘りの地下水をくみ上げている湧水プールが大好評でした。しかし水温が約十七度と冷たく、最初はビックリする事態です。でも子供はすぐに慣れて大喜びで遊んでいました。

週末は、入れ替わりで多くの家族に里山を楽しんでもらえました。リピーターも増えてきて、毎日定時にやってくる親子もいました。

四. 収穫の秋

田んぼの学校稲刈り

九月になって、子供達が五月に植えた田んぼの稲穂が垂れてきました。

いまだにコロナは終息しませんが、徐々に落ち着いてきた気配が感じられるようになり、田植えと同様に各校の分散で稲刈りを実施することにしました。

九月十二日(月)は御所ヶ丘小学校、十三日(火)は大井沢小学校、十五日(木)は松前台小学校が実施しました。

三日間にわたりましたが幸い天候にも恵まれ、彼岸花が咲き始めていました。

足場が悪く、特に縛り方が難しかったようで、四苦八苦しながら皆で協力し、泥だらけになりながらやりとげました。

結束する稲わらは稲わら妖怪「アマビエ」を解体して調達です。オダ掛けして天日干しのあと、台風などの雨で少し遅れて十月二日(日)に脱穀して、各学校に収穫米を配布しました。



稲わら妖怪アマビエも見守る稲刈



各学校の稲刈り風景



マコモ収穫
九月に稲刈りは終了しましたが、一〇月も里山は芋掘り、マコモ等多くの秋の恵みがあります。マコモは昨年に続いて二年目の栽培で、面積も拡張し施肥、水管理、除草などの栽培管理も上達しました。
十月になると株の根元に膨らみがでてきて、マコモダケが収穫できます。
一〇月一二日(水)は皆で初収穫した後に、収穫祭で試食パーティーを行いました。マコモは収穫時期が長く十一月中旬頃まで次々



土手の彼岸花が満開

心でしたが、今年は、キンピラ、サラダ、炒め物等を手作りして試食しました。幅広い市民にマコモを知ってもらおうと種々取り組んでみました。知り合いのレストランなどへ持ち込み使ってもらったり、「ぶらぶら亭」で販売してみました。最初は名前も知らないという人が多いのですが、徐々に知られてきて購入も増え



大収穫のマコモダケ



山のように積み上げられたサツマイモ

と出てきます。マコモの食べ方として、バーベキューだけでなく色々試作しました。昨年は揚げ物が中

てきました。

御所ヶ丘小学校一年生のサツマイモ掘り

十一月一日(火)は御所ヶ丘小学校の一年生四十六名が芋掘り体験で里山にやってきました。一年生はまだ小柄で、大きなバツクに長くつななどをいれ元気いっぱいやってきました。早速芋ほりを始めると、土の中から掘り上げた大きなサツマイモ



に歓声が上がります。芋は重いので各自が持ち帰るのは大変だろ

うと、里山の会が軽トラックで運搬しました。

五、市民大学里山講座

もりや市民大学の令和4年度「守谷を知るコース」において、十月一日(土)と十五日(土)の二回に分けて「守谷の里山を知る」講座が実施されました。講師は里山ネットワーク代表の清野が務めました。コロナに配慮して、一回目の座学については会議室が十五名、オンライン賛参加が十名ほどで、守谷の里山に関する全般的な講義が行われました。

二回目は二十数名で皆が市民活動センターに集合し、徒歩で「立沢里山」まで移動し現地視察を行いました。立沢里山は「田んぼの学校」など子供参加の行事は終了し、静かな季節ですが、里山を散策しながら秋の草花などを見て回りました。ちょうど利



市民大学の現地視察

根川湿地の原風景でもあるマコモがたまたま収穫期だったので、ほとんどの人は初耳の植物ですが食べられることから、お土産に持ち帰ってもらいました。

【編集後記】

守谷市内で里山活動に取り組んでいる皆さんからの情報提供が何よりも重要です。本紙への活動報告、行事の予告など記事をお寄せください。

こちらまで

メール⇒ denen21@ktb.biglobe.ne.jp